

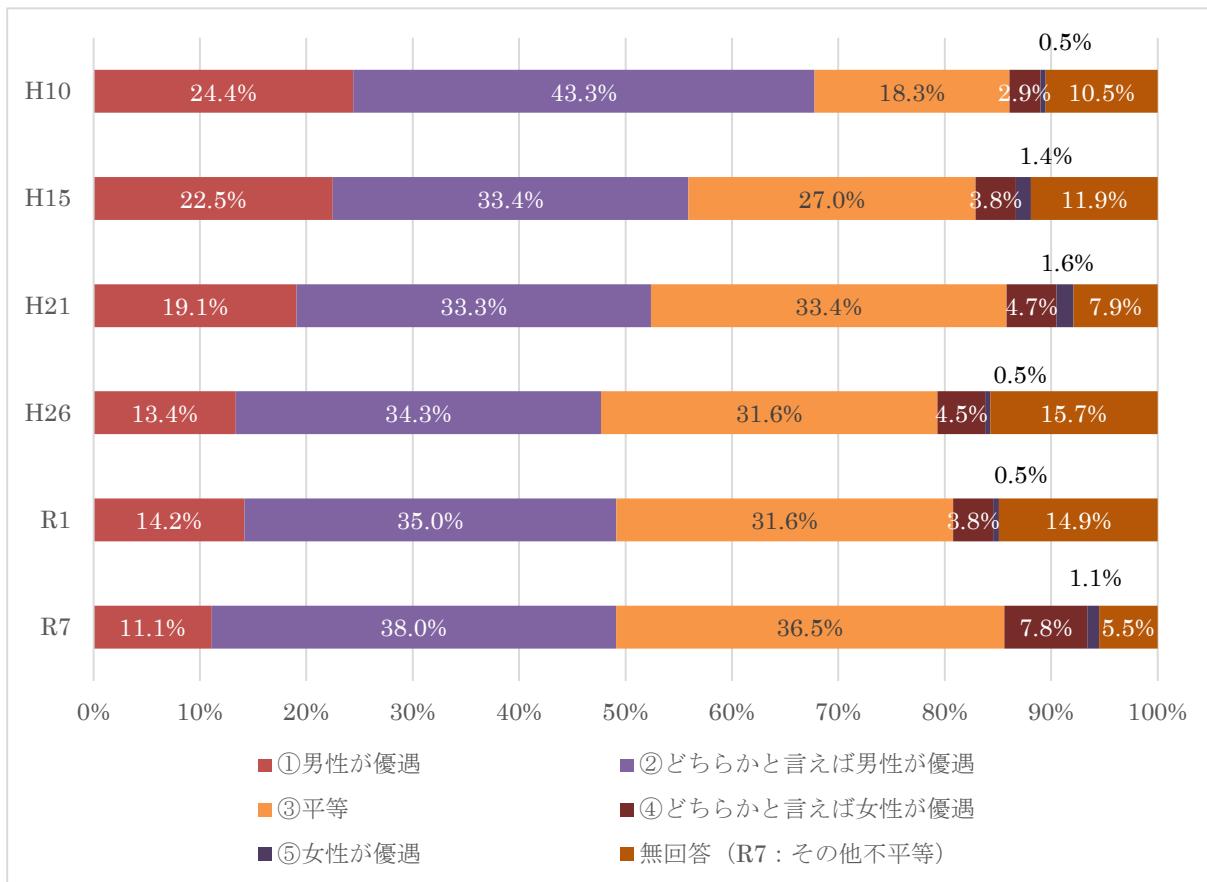
1. 男女平等に関する意識について

問1 次の項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか？

- (1) 家庭生活で
(2) 職場や職業で
(3) 地域社会で
(4) 学校教育で
(5) 法律や制度の上で
(6) 政治の場で
(7) 社会通念や慣習、しきたりで
- ① 男性の方が非常に優遇されている
② どちらかと言えば男性の方が優遇されている
③ 平等である
④ どちらかと言えば女性の方が優遇されている
⑤ 女性の方が非常に優遇されている

※以下、全体 (R7) n=221 (女性 n=131、男性 n=87、性別未記入 n=3)

【意識全体の経年変化（7項目の平均値の推移）】

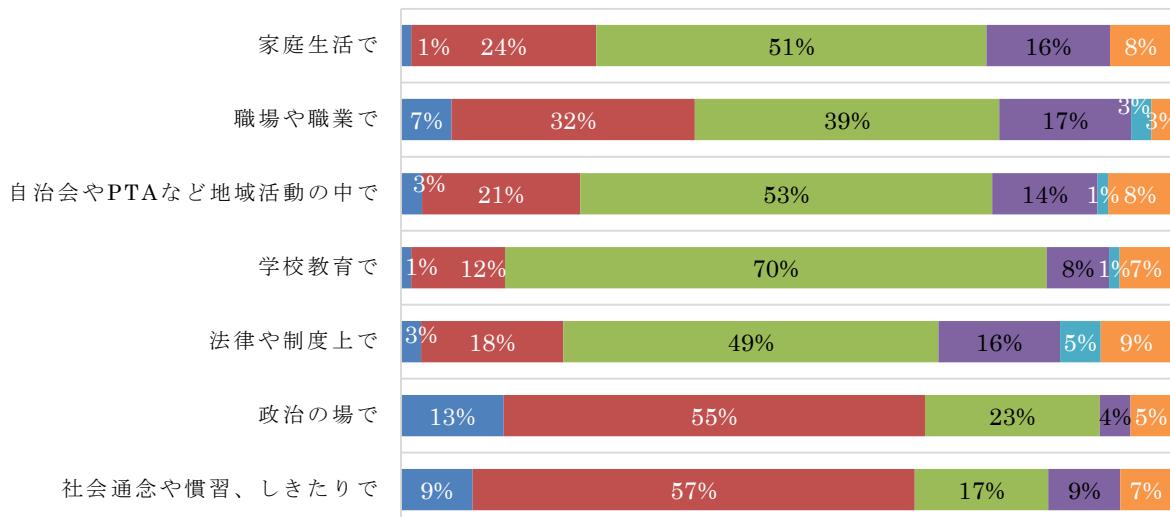


- ・「男女の地位は平等」であると回答した割合は、前回調査(令和元年度実施)から7項目の平均で約5ポイント増加しているものの、未だ 36.5%と低い結果となっている。
- ・一方「男性が優遇」されていると回答した割合は着実に縮小しており、「男女の地位は平等」と回答した割合は令和 7 年度が過去最高となっている。

【意識全体(性別比)(R7)】

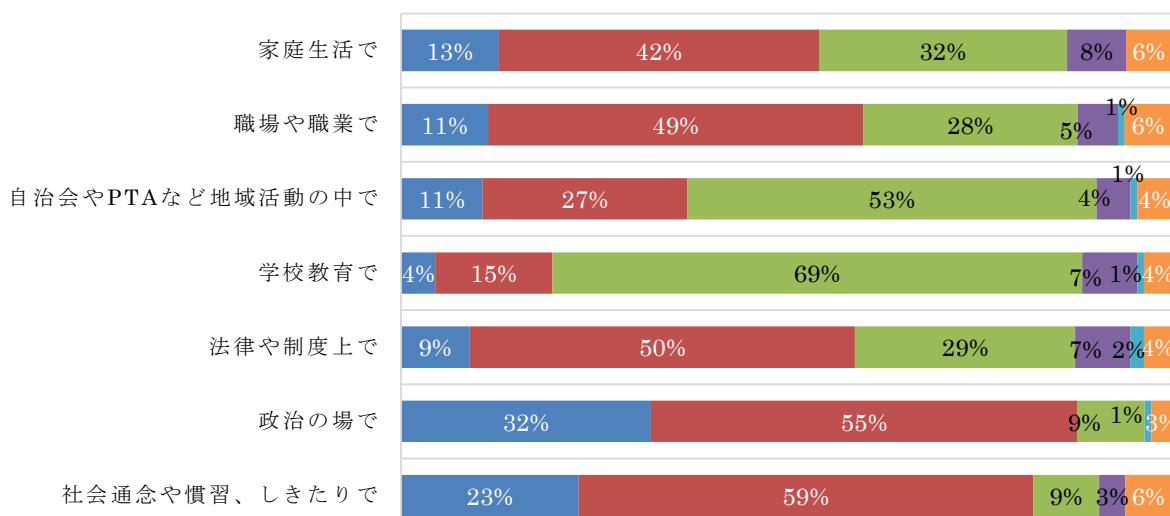
男女平等に関する意識（男性）

- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- その他性別による不平等がある



男女平等に関する意識（女性）

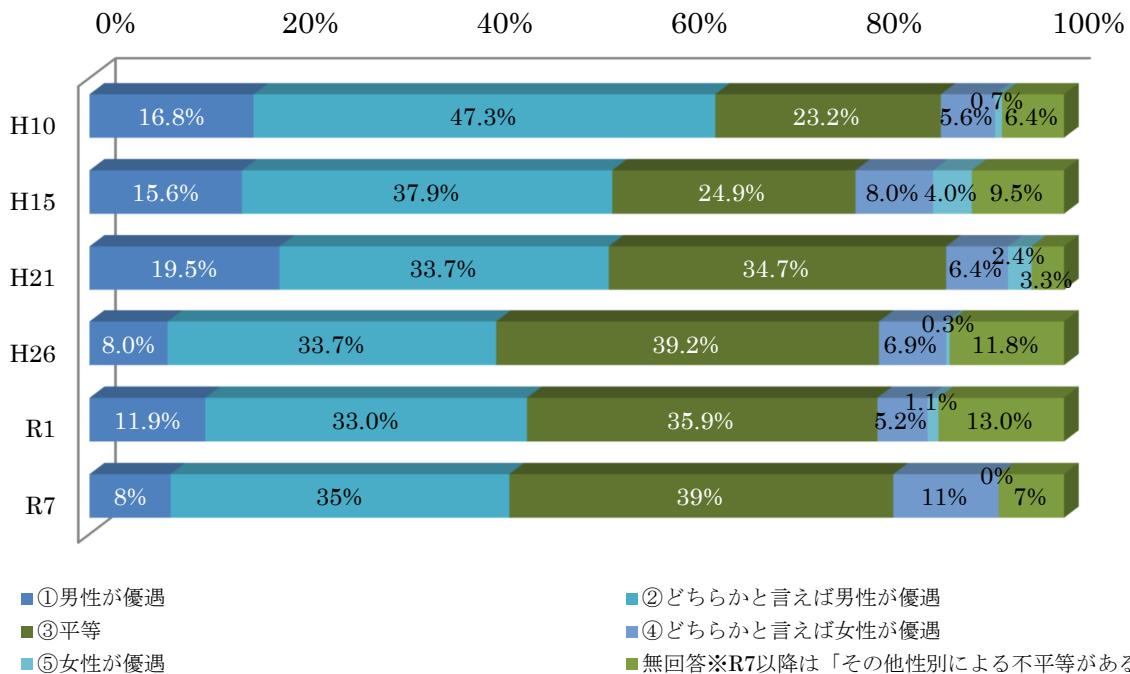
- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- その他性別による不平等がある



「法律や制度上」「家庭生活」「職場や職業」で、女性は男性よりも「男性が優遇」と感じる割合が高い傾向が見られる。

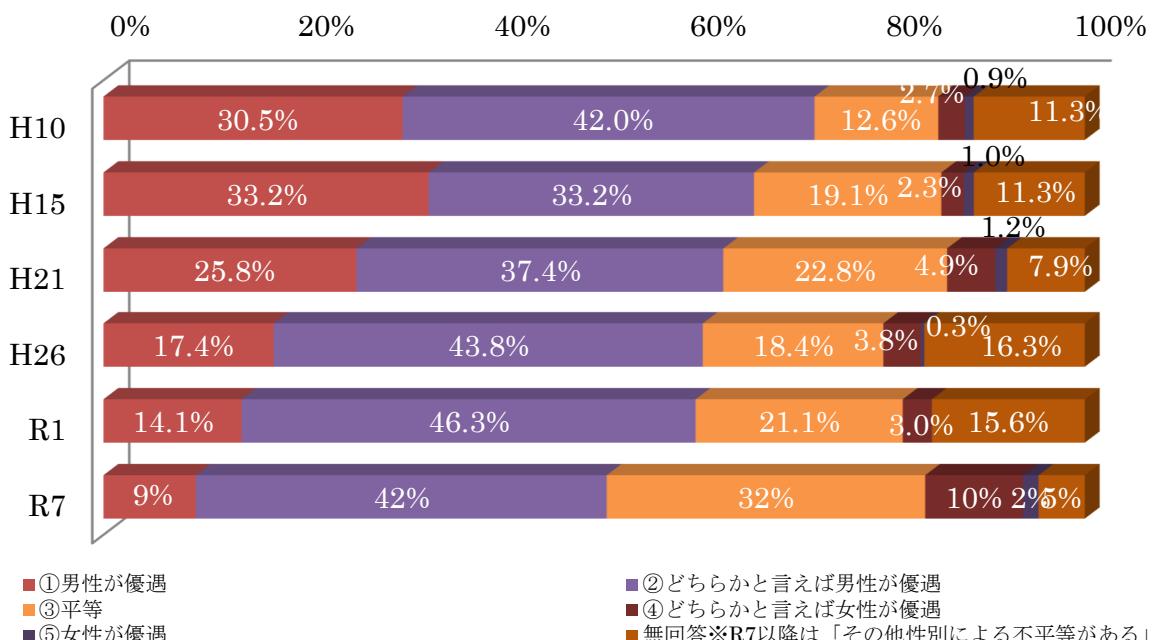
(1) 家庭生活で

【全体(経年変化)】



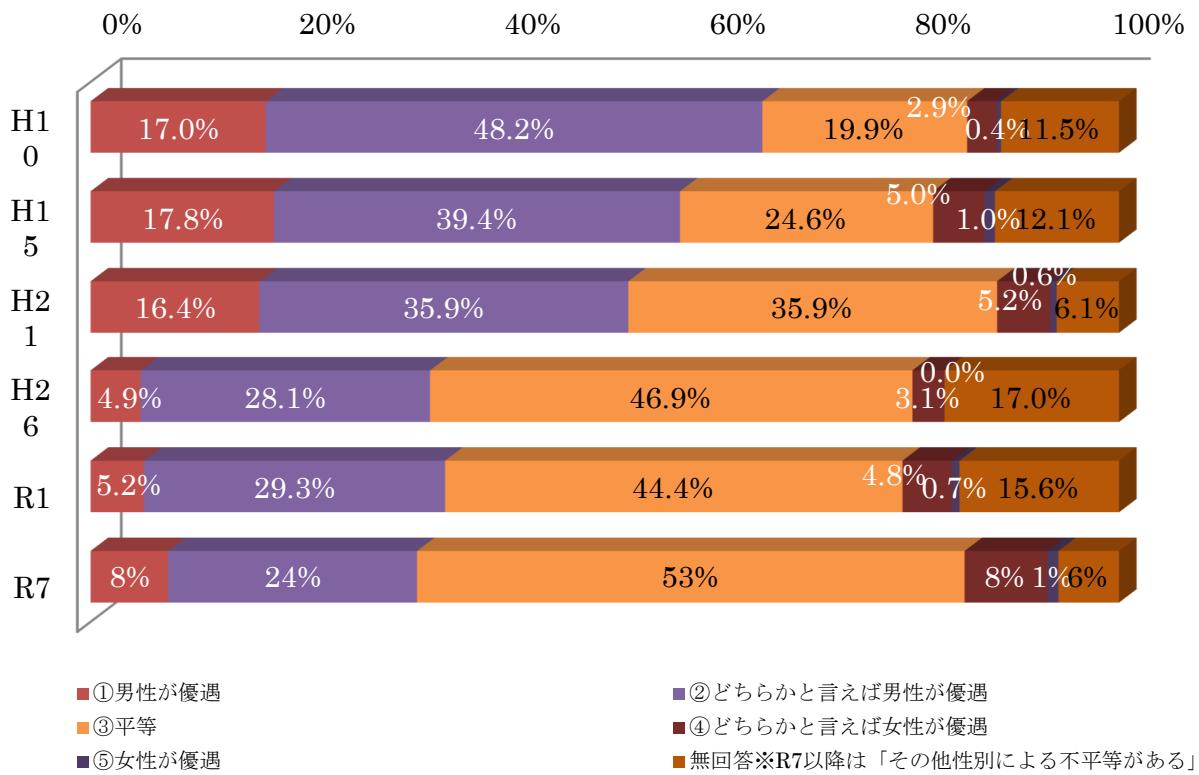
家庭生活に関する認識は、平成 10 年度以降「男性が優遇」と回答した割合が大きく低下し、代わって「男女の地位は平等」が上昇している。

(2) 職場や職業で



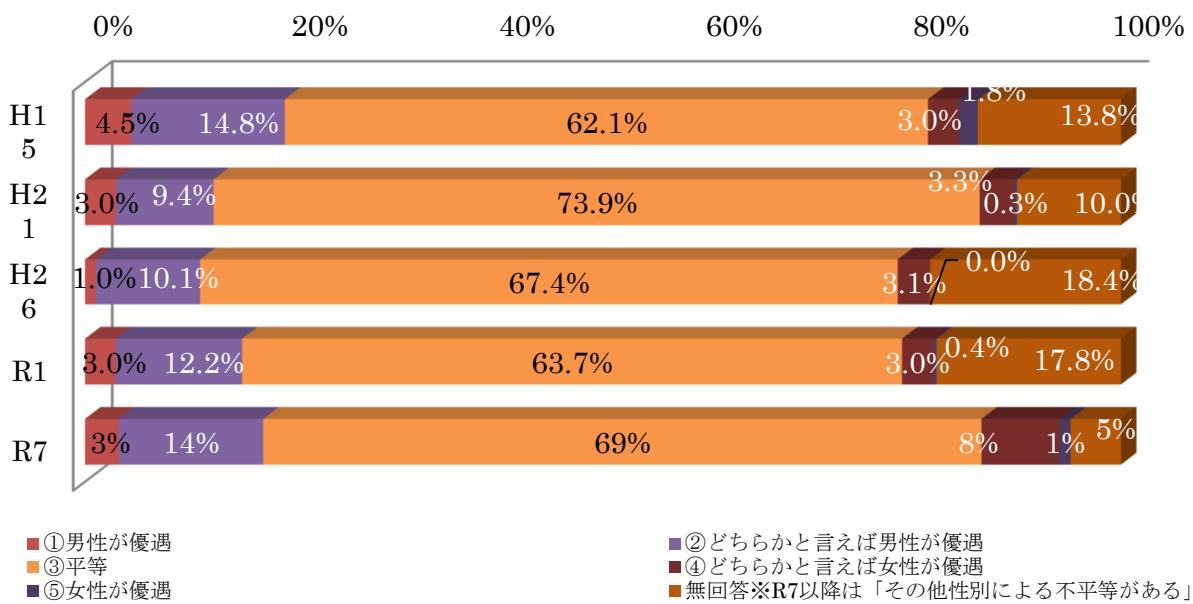
令和7年度においても依然として「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」が過半数を占めているが、過去調査と比較すると「男性が優遇」が大きく低下し、「男女の地位は平等」が大幅に上昇している。

(3) 地域活動の中で



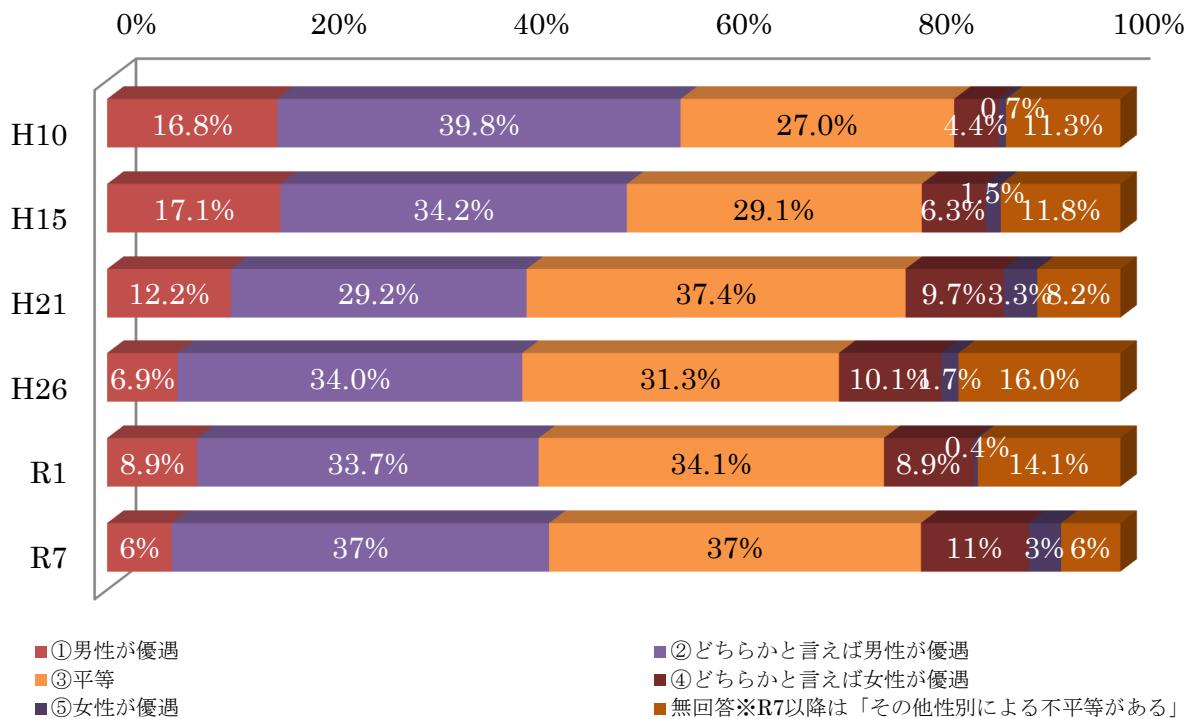
長期的にみると「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」が大幅に低下し「男女の地位は平等」とする回答が上昇している。

(4) 学校教育で



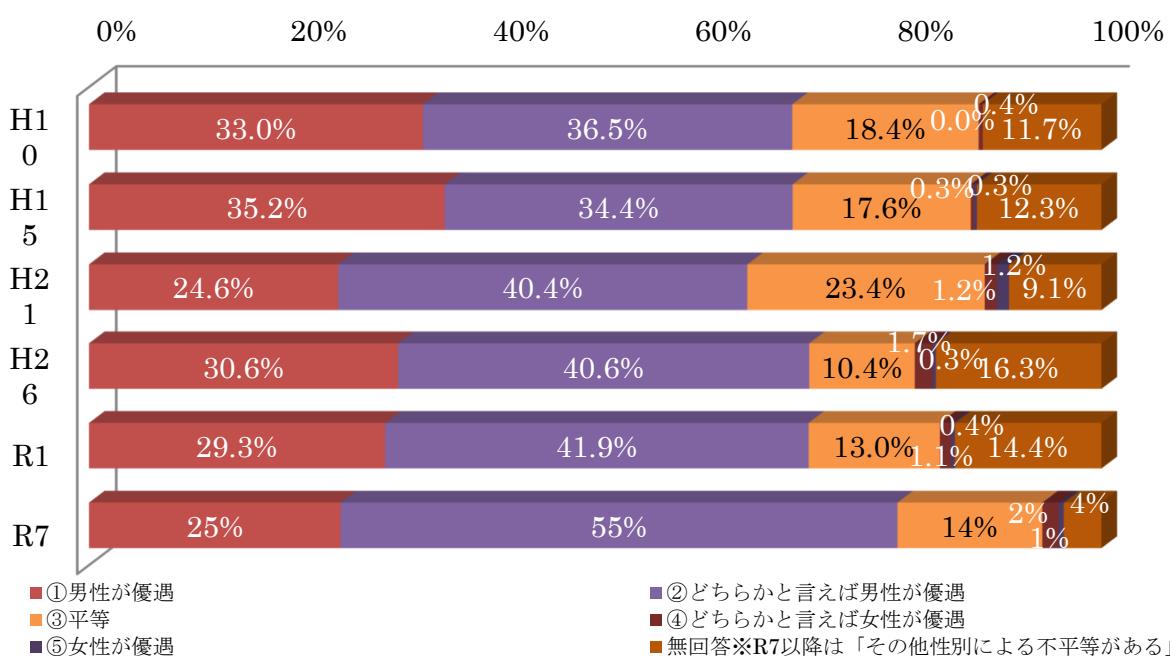
これまでの調査においても「男女の地位は平等」とする回答が最も多く、令和7年度でも69%と高い割合となつた。

(5) 法律や制度の上で



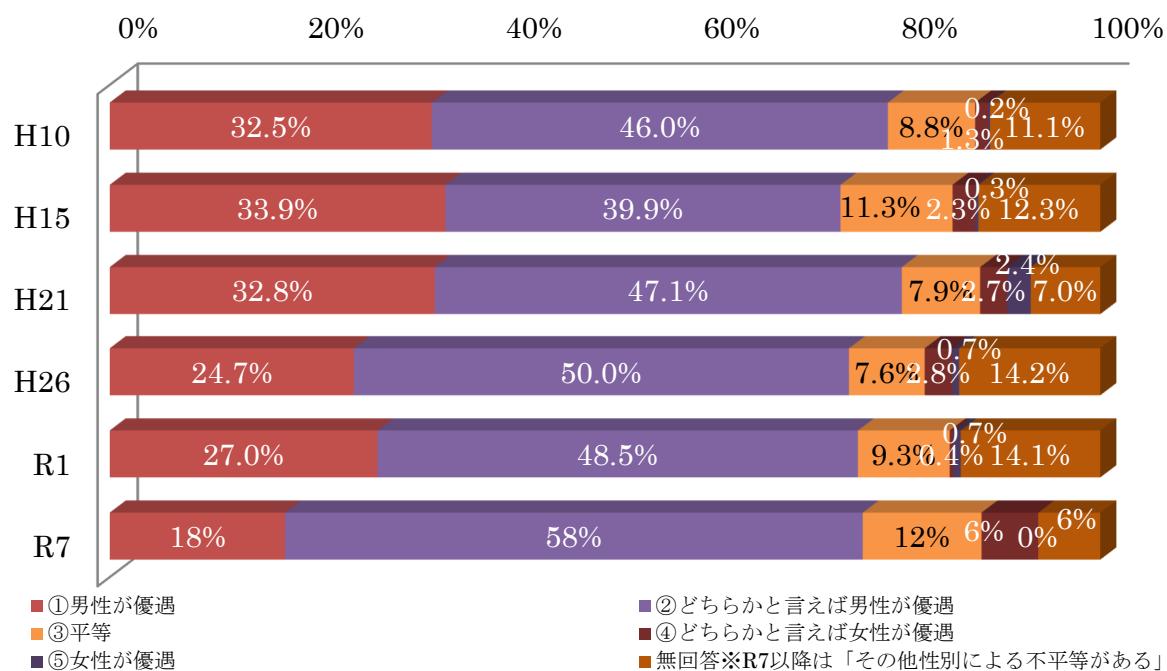
法律や制度については、令和7年度でも「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」43%と最大である一方、「男女の地位は平等」も37%と大きく、両者は拮抗している。

(6) 政治の場で



令和7年度で「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」が80%となり、これまでの調査の中で最も高い結果となった。「男女の地位は平等」は14%にとどまり、調査開始以降低水準で推移している。

(8) 社会通念や慣習、しきたりで



各年度を通じて「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」が非常に高い状態が続いている。